

第20回エコ・リサ研修見学会報告

8月29日(木)に環境活動と地域活性化の最新情報収集を目的としまして、県内4か所の見学と、もりだくさんで行いました。

報告者：土淵 昭

今回の参加者は28名で見学先は、午前中に今年新しくリサイクルプラザが出来た蓮田・白岡衛生組合、続いて古布の再利用を進めているキムラセンイ(株)の加須工場、午後から行田の浄水場にあるメガソーラー、最後はお楽しみの忍城跡がある行田市郷土博物館の4か所で、見学箇所が多く駆け足で充実した見学会だった。

1. 蓮田・白岡衛生組合のリサイクルプラザ

* 蓮田・白岡衛生組合環境センターの中にあるリサイクルプラザ(愛称 エコプラザ)は平成25年4月5日(金)に開館し、出来立てのホヤホヤのところを見学した。

* 建物は2階建てで一階は再生家具、楽器等が展示され、1カ月に1回の頻度で抽選に当たった住民に販売しており、ほかに小さな本棚があって貸し出す制度になっている。



現在はまだ衣類や食器、雑貨などは扱っていないが将来はそれらも扱いたいとのこと。

* 2階は会議室が1室、研修室が2室あって、3R活動やエコ活動を目的とした会議や研修のために安い費用で貸し出している。

* 建物の床や階段はガラスカレットを有効利用した美しい模様がおしゃれです。



* 建物の外側には緑のカーテンやウイスキー樽を利用した雨水溜めがあって、植物の水やりなどに利用しており、また、室内には薪ストーブがあってエコを心がけている。

* 環境センターでは、ごみの分別手引き(50音別)の22ページにわたる冊子を住民に配布していて、とても懇切丁寧でよいな、と思った。

また、「環境センターだより」の2月号と6月号を頂いたが、4カ月に1回発行しているのも感心した。



* なお、ごみ収集としての持ち込みは有料だが、リサイクルステーションへの持ち込みは無料、とのことだったが、どんなものがごみ扱いとなり、何がリサイクル品として扱われるかは聞き漏らした。

2. キムラセンイ(株)

* バスの中で参加者の自己紹介をした時に、古布業界の方から古布のリサイクル率は10%程度しかないのでは、是非皆様に回収のPRしていただきたい、と言う話があった。

* キムラセンイの工場敷地内に入った時、回収した布団が積んであったのを見た。

私が住んでいる狭山市では、布団は粗大ごみで出すことになっているので、近くの従業員の方に尋ねたところ、布団はものにより回収する、とのことだった。



* 初めに木村秀之社長のご挨拶があり、続いて説明者より会社概要を説明していただいた。

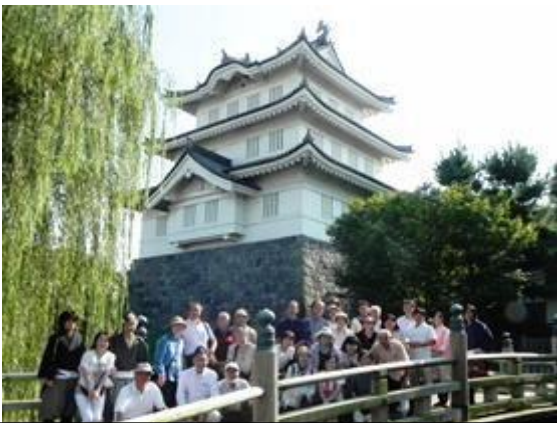
* キムラセンイは加須の本社工場の他に騎西工場、加須インター工場、伊奈ストックセンターがあり、国外にはマレーシアに工場があるとのこと。その他に埼玉県内 7 か所に古着を扱う店舗がある。

* 従業員は 100 名とのことで、安全衛生教育も行き届いていて、皆さん生き生きとして楽しそうに仕事をしている様子が見え、人を大切にする良い会社だと感じた。

* 古布の利用先はウエスが 15~20%、反毛と言ってほぐして糸状にするのが 20~25%、古着をそのまま再利用するのが約半分で、その内マレーシア工場に送るのが 95~97%、国内では 3~5%利用されている。マレーシア工場でさらに選別して、韓国、ベトナム、フィリピン等に再輸出されている。

* 分別はきわめて多種多様に分類されていたが、古着としてそのまま使うものが多いので、家庭から出る衣類はボタンなどを外さないでそのまま出してほしい。とのことだった。

* 私の昔なじみの木村誠会長にお会いしたので、古布のリサイクル率を聞いてみたら、埼玉県は 30%程度あるが、人口の少ない地域ではゼロの村もあるとのこと。



のぼうの城前でエコ・リサ研修見学会参加者全員

工場を見学してみて、行政も含めて市民が「どんな古布なら再利用可能なのか」がよく解らないのが回収率の低い原因で、古布業界としてもっと分別基準を PR すること。

3. 行田浄水場のメガソーラー

* 行田浄水場は利根川を水源とし、県内の 24 市町に水道水を供給していて、広い面積の浄水(飲料水)池(厚いコンクリートで蓋をしてあって芝生が貼ってある)の上を有効活用して、発電容量 1,200kw の太陽光パネルを平成 23 年に設置した。

* パネルは南向き 25 度の傾斜角で最も発電効率が良いように設置し、年間予測発電量は 137 万 kw とのことであるが、発電した電力は浄水場内部ですべて使用すること。



* 年間の二酸化炭素削減量は 530 トン、ブナ林換算で 93ha 相当とのことだった。

4. 行田市郷土博物館

* 忍城跡の門前で槍(と見立てた棒)を使った演武に歓迎され、そのあと忍城跡を見たが、昔は広大な沼地の中にある僅かな高地を利用した城で難攻不落の様子がうかがえた。

* 行田市は埼玉古墳群など古代から開かれ、鎌倉、室町、等歴史が古く大正時代には足袋の生産が盛んだったようだが、今は水田と住宅地が多いのどかな街でした。

繊維リサイクル工場を見学して

報告者：筑波大学附属小学校教諭 勝田映子

事務局の宮田さんのお誘いで、エコ・リサ夏の研修見学会に初めて参加させていただいた。私は小学校で家庭科を教えている。「回収された衣類は、どうリサイクルされるのか」。この目で見て、子どもに伝えたい。胸は期待でいっぱいだった。

見学先は、キムラセンイ（株）の加須工場である。到着するやいなや倉庫に山と積まれた衣類が目に入る。笑顔で出迎えて下さった会社の方のご案内で工場内へ。入口で気持ちの良い挨拶と共にスリッパとマスクとを渡していただく。会社の皆さんの細かい心遣いを有り難く思う。

工場内は広々として明るい。衣類が次々とベルトコンベアーで送られてくる。

それを選別し、梱包し、出荷するのが、この工場の仕事である。

コンベアで送られてくる衣類は、一つ一つ人の手に



よって3つに分けられる。中古衣類市場に出す物、ウエス（機械メンテナンス用雑巾）の原料そして反毛原料。中古衣料は、さらに国内用と東南アジア用に分けられ、さらに性別やアイテム別に約110品目にも分けられる。それらは全て、国内または東南アジアの系列の中古衣料店舗で販売されるという。

衣類を仕分けている方の手さばきは実に鮮やかだ。留め袖から子ども服まで一瞬のうちに質を見極めて、手元のカゴに仕分けていく。手が止まることがない。

そのプロの目の凄さには驚愕した。

こうして仕分けられた衣類の山は、機械で圧縮される。100kgの包みに圧縮された巨大な衣

類の束は、工場内でコンテナに積みまれ、トラックで出荷されていく。

会社の方の説明によれば、国内はもとより海外、特にマレーシアでの事業展開が好調だという。現地の様子を映像で見せていただいたが、衣類が整然と陳列された明るく清潔感のある店舗と、従業員の皆さんの元気な笑顔が印象的だった。



この工場では、衣類の他にふとんのリサイクルも行われていた。ふとんは、綿、糸、布地の3つに分けられる。綿は、さらに羊毛、化繊綿、木綿綿に分けられ、ぬいぐるみの中綿や車の内装等の原料に変わる。また、糸は軍手に、布地は縫製品の材料となる。何と素晴らしいことだろう。粗大ごみワースト1と言われるふとんをこのようによみがえらせている会社があるのだ。まだまだ日本も捨てたものではない。大変明るい気持ちになった。

今回は繊維リサイクル協会の皆様も同行され、解説をしてくださった。皆様の事業が発展されるよう、物を大切にすることの重要性や、再生品を買い支えるなど消費者としての責任を子どもたちにしっかり伝えていきたいと思う。このような素晴らしい研修会をご準備下さった関係者の皆様に心から御礼申し上げます。



エコ・リサ連絡会の研修学習会に参加して

報告者：末吉美帆子（市民ネットワーク所沢、所沢市議会議員）

ギュッと凝縮された実に勉強になる研修に参加させていただきありがとうございました。

開館したばかりの蓮田白岡エコプラザではガラスカレットを練り込んだ美しい階段や薪ストーブが印象的。



グリーンカーテンの見事な蓮田白岡エコプラザ

古繊維リサイクルのキムラセンイは、私の住む所沢市も含め多くの自治体から大量の古着を受け入れています。全国で100万トン衣料品が供給され、20万トンがタンス在庫、84%焼却処理16%リユースリサイクルと伺いました。再利用のうち半数が海外に送られ「開発途上国の低所得層の人々にとって日本の古着は渴望されている」の言葉。生き生きと笑顔で働くマレーシア工場のDVDは良かった反面、何故か切なく、衣料が使い捨ての日本社会これでもいいのかと感じました。



県内公共施設最大級の太陽光パネル発電の行田浄水場。年間137万キロワットを見込みながら電気量の4.7%しか賄えないことに驚き、緒についたばかりの自然エネルギー利用の経過を期待しつつ注視したいと思います。



ずらりと並んだ行田浄水場のメガソーラー



そして最後に行田市郷土博物館に伺い「のぼりの城」で描かれた忍城と埼玉の深い歴史を学び、街おこしの「おもてなし甲冑隊」にも会え充実の1日になり感謝です。

エコ・リサ連絡会の活動に大いに期待しつつこれからも応援します。

